

「日本補綴歯科学会誌専門医症例報告論文」投稿の手引き

日本補綴歯科学会

2012年（平成24年）3月15日

「日本補綴歯科学会誌専門医症例報告論文」投稿の手引き

日本補綴歯科学会誌専門医症例報告論文への投稿では、投稿規定のほかは本手引きに準拠する。

I. 投稿方法の概要

1. 専門医症例報告の投稿は補綴学会事務局担当者宛へ電子メール送信する。
2. 第1稿投稿時の要提出書類は①原稿、②投稿票、③承諾書の三つである。チェックリストの送付は必要ない。
投稿票には、論文の種別（○で囲む）、表題、著者名、筆頭著者生年月日、所属、連絡先（氏名、住所、電話番号、Fax 番号、電子メールアドレス）、原稿枚数、図枚数、表枚数、別刷希望部数を記入する。
承諾書には著者の署名を行う。チェックリストに記載された各項目について確認し、著者のチェック欄に「✓」印を入れる。
承諾書は署名・捺印済みのものをPDFファイル化して補綴学会事務局へ電子メール送信するか、プリントアウトしてファックス送信もしくは郵送する。
3. 原稿は著者情報をブラインド化する。次の順に作成し、番号ごとに改頁する。表題の頁を第1頁とし、頁番号を下段中央に記す。表、図（写真を含む）も原則同一ファイルに貼りつける。
 - 1) 表題（和文、英文）、（ランニングタイトル）
 - 2) 和文抄録、和文キーワード
 - 3) 英文抄録、英文キーワード
 - 4) 本文原稿
 - 5) 文献
 - 6) 図表のタイトルおよび説明（英文、和文）
 - 7) 表、図（写真を含む）

II. 投稿原稿の書き方

1. 原稿ファイル種類
MS Word(2003バージョン以下)
2. 原稿の様式
 - 1) 原稿は、口語体、新かなづかい、平がな、横書きとし、文字サイズ12ポイント程度を原則とする。
 - 2) 数字、英字はすべて半角で入力する。英文ではArialもしくはTimes New Roman フォント、12ポイント以上の大きさの文字を用いてダブルスペースで作成する。スペースは半角にする。
 - 3) 刷り上がり4頁以内とする。全角2000字程度で刷り上がり1頁に相当するので、原稿作成時の参考にする。

3. 原稿の記述様式

1) 表題

表題は40文字以内とする。表題が35字を超えるものは、柱（ランニングタイトル）用として35字以内の表題を第1頁下段に記載する。表題には原則として略号を用いない。万一用いる場合には、抄録および本文中の初出時に、正式名称と略号を併記する。

2) 和文抄録および英文抄録

和文抄録および英文抄録では、以下の3項目を太字で項目立てし、要約を全体でそれぞれ250～300字および100～150 wordsで簡潔に記載する。なお、抄録の末尾に字数およびword 数をそれぞれ記載する。抄録には原則として略号を用いない。万一用いる場合には、初出時に、正式名称と略号を併記する。

和文抄録：症例の概要，考察，結論

英文抄録：Patients, Discussion, Conclusion

3) 和文および英文キーワード

キーワードは和文，英文ともに5つ以内とし，略号を用いてはならない。

4) 本文の構成および記述法

原稿の内容は学術大会において，専門医申請のためのケースプレゼンテーションとして発表したものとする。本文は，以下の項目に沿って記述する。

(1) 緒言：症例の特徴や診療の問題点を述べる。

(2) 症例の概要：

- a. 患者：年齢，性別
- b. 初診日：西暦で記載
- c. 主訴：患者が最も訴えている事項（病名・診断を記載しない。“障害”は病名で用いる用語である）
- d. 既往歴：全身的，歯科的（記載内容がない場合は，“特記事項なし”と記載）
- e. 現病歴：当該部位の初診までの病歴
- f. 現症：全身所見，口腔内所見
不適切用例：咀嚼障害、審美障害、発音障害
適切用例：咀嚼困難、審美不良、発音困難
- g. 検査結果：エックス線所見，臨床検査所見，術前の機能評価，その他
- h. 診断：病名の記載方法は本学会ホームページに詳細が掲載されているので参照のこと
http://www.hotetsu.com/s/doc/cure_about.pdf
また，日本補綴歯科学会が推奨する歯質，部分歯列欠損，無歯顎についての症型分類を記載のこと
「症型分類 特に歯質，部分歯列欠損，無歯顎について」
日本補綴歯科学会雑誌49巻2号 Page373-411 (2005. 04)

(3) 治療内容と経過：

- a. 治療方針および計画：治療順序，インフォームドコンセントの内容などを含む。
 - b. 処置内容：前処置，補綴術式，技工術式など
 - c. 術後の経過
 - d. 術後の機能評価
- (4) 考察：処置内容や術後経過に対して議論する。
- (5) 結論：正確かつ簡潔に症例について記述する。

5) 文献の記載様式

- (1) 本文で引用した順序に一連番号を付して列記し，本文の末尾に記載する。同一箇所でも複数引用した場合は年代順とする。
- (2) 著者名は姓，名（外国人はイニシャルのみ）の順とする。
- (3) 共著の場合は筆頭者を含め6名まで記して，7人目からは，「ほか」または [et al.] と略す。ただし，広報編集委員会が認めれば7名以上を記載することができる。
- (4) 引用文献の表示は原著の表示に従う。英文の場合は，文頭の語の頭文字のみ大文字とする。
- (5) 雑誌文献引用記載は次の方式による。
 - a. 雑誌論文は著者．表題．雑誌略名 発行年（西暦表示とする）；巻：頁-頁．の順に記載する。頁は通巻頁を原則とするが，頁表記が1号ごとに第1ページから始まる（通し頁でない）雑誌に限り，号も記載する。
 - b. 雑誌の略名は当該誌が標榜する略称（付：学術雑誌略号一覧参照）とする。それ以外は医学中央雑誌の略名表と Index Medicus に準拠する。
 - c. 原書あるいは原論文が得られずに引用する場合は，末尾に（から引用）と付ける。
 - d. 受理されたが未発刊の文献は末尾に印刷中（英文の場合は，in press）と記載する。
 - e. Webページの引用記載様式は，Vancouver styleとする。

一般例：

山崎彰啓，清水政利，黒崎俊一，湯浅 智，谷津 悟，藤森克俊ほか．印象採得法の臨床的検討．補綴誌 1988；32：403-408.

Beresin VE, Schiesser FJ. The neutral zone in complete denture. J Prosthet Dent 1976; 36: 356-357.

Cancer Research UK. Cancer statistics reports for the UK, <<http://www.cancerresearchuk.org/aboutcancer/statistics/cancerstatsreport/>>; 2003 [accessed 13.03.03].

通し頁でない雑誌の例：

竹山守男，樫渕信郎，中林宣男，増原英一．歯科用即硬性レジンに関する研究（第17報）歯質および歯科用金属に接着するレジン．歯理工誌

1978; 19 (47):179-185.

O'Neal SJ, Leinfelder KF, Barrett CE. Clinical evaluation of Dentacolor as a posterior veneering agent. J Esthet Dent 1989; 1 (1): 29-33.

(6) 単行本文献引用記載は次の方法による.

a. 単行本は著者. 書名. 発行地: 発行者; 発行年, 頁-頁. の順に記載する.

b. 単行本の書名は略記しない.

c. 単行本を2カ所以上で引用する際は, 各々の引用頁を記載する.

例:

藤田恒太郎. 歯の組織学. 東京: 医歯薬出版; 1958, 122-130.

Glickman I. Clinical Periodontology. Philadelphia: Saunders; 1953, 76-78.

Shillingburg HT, Hobo S, Whitsett LD, Brackett SE. Fundamentals of fixed prosthodontics, 3rd ed. Chicago: Quintessence; 1997, 155-169, 211-223.

(7) 分担執筆の単行本文献引用記載は次の方式による.

分担執筆の単行本は分担執筆者. 分担執筆の表題. 編者または監修者, 書名, 巻などの区別, 発行地: 発行者; 発行年, 頁-頁. の順に記載する.

例:

津留宏道. テレスコープシステムの理論と実際. 林都志夫, 保母須弥也, 三谷春保ほか編, 日本の補綴, 東京: クインテッセンス出版; 1981, 277-291.

Ogle RE. Preprosthetic surgery. In: Winkler S, editor, Essentials of complete denture prosthodontics, Philadelphia: Saunders; 1979, 63-89.

(8) 翻訳書文献引用記載は次の方式とする.

翻訳の単行本, 論文は著者 (翻訳者). 書名 (翻訳書名. 発行地: 発行者; 発行年, 頁-頁.), 発行年. の順に記載する.

例:

Hickey JC, Zarb GA, Bolender CL (川口豊造). Boucher's prosthodontic treatment for edentulous patients (バウチャー無歯顎患者の補綴治療. 東京: 医歯薬出版; 1988, 397-399.), 1985.

6) 表と図 (写真を含む) の書き方

(1) 図表の枚数は必要最小限にとどめる. 図表は各1枚が標準のサイズ (本誌の片段に収まるもの) 6枚で刷り上がり1頁に相当する.

(2) 写真は1カットを1枚とするが, やむを得ず組写真を用いる場合は, 標準のサイズ (本誌の片段に収まるもの) の範囲内に縦3枚×横3枚を1組の限度とする.

(3) 図表のタイトルおよび説明文については英文で作成し, 和文を併記する.

- (4) 表と図（写真を含む）は本文で引用順に，表は表1，表2…，図は図1，図2…のように一連番号をつけ，原稿ファイルに貼りつける．図表1枚ごとに改頁する．
- (5) 原稿ファイルの総データサイズが15メガバイト(MB)未満となるよう可能な範囲内でできるだけ鮮明に図表の画像データを調整する．もし画像解像度が著者の満足する水準に至らない場合は，投稿論文受領後，出版前最終校正時に所望する画像データを補綴学会事務局担当者へ送付する．

7) その他論文作成上の留意事項

- (1) 見出しは次の順に項目をたて，順に行の最初の一画をあける．
 - I, II, III, IV, V,
 - 1, 2, 3, 4, 5,
 - 1), 2), 3), 4), 5),
 - (1), (2), (3), (4), (5),
 - a, b, c, d, e,
 - a), b), c), d), e),
 - (a), (b), (c), (d), (e),
- (2) 材料，器材の表記は，一般名（製品名，製造社名，所在地，国名）を原則とする．

例：
即時重合レジン（ユニファースト，GC，東京，日本）
- (3) 歯学学術用語については，平成21年社団法人日本補綴歯科学会発行の「歯科補綴学専門用語集（第3版）」に準拠する．
- (4) 数字は算用数字とする．
- (5) 数字を含む名詞，形容詞，副詞（例：十二指腸，三角形など）は漢数字とする．
- (6) 単位は原則として国際単位系の基本単位，補助単位および組み立て単位を使用する（温度は摂氏を使用する）．

参照： 単位及び単位間換算表：日本金属学会編（及川洪）．「改訂二版金属データブック」（1984）丸善（株） SI単位換算表：日本歯科材料工業協同組合編．「ガイドブック」1992年版 日本規格協会
- (7) 略語，略号は国際的に慣用されている用語を使用する．
- (8) 外国語はすべて原綴りとし，文頭にあっても大文字にしない．ただし，固有名詞は最初の文字を大文字で書く．
- (9) 英文の改行に際しては，word で切る．
- (10) 微生物，動植物などの学名は，二名法によりイタリックとし，最初の文字だけ大文字で書く．たびたび使用する場合は，2回目以後属名を省略してもよい．

例：

Streptococcus mutans → *S. mutans*

(11) 英文原稿の綴りは米国語綴りを基本とする。

(12) 歯式の記載方法

a. 本文中の表記は，上下顎，左右側，歯種の順とする。

例：上顎右側第一大臼歯

b. 理解の補助のために歯式記号を付記することを勧める。

c. Zsigmondy/Palmer式の歯式表記法（以下歯式記号と略す）を勧める。

例：上顎右側第一大臼歯（6）

この場合，歯式に用いる特殊記号・外字などは，現時点では電子ファイルを介しての伝達が困難であることに注意する必要がある。

d. 省略形は避けて，歯式記号とする。例：右上6番は，6と記載する。

e. ブリッジなど表現が難しい場合は，歯式記号表記のみでもよい。

例：③④⑤⑥

f. 図・表中の表記は，できるだけ，歯式記号を用いる。

g. 表題には原則として歯式記号を用いない。

Ⅲ. 学会誌掲載時の校正

1. 学会誌掲載時の校正は著者が行う。学会事務局から電子メールで著者に送付されるPDFファイルの校正用原稿に，日本工業規格（JIS Z8280-1965）に準拠した形式で校正を行う。（付：校正記号表参照）。
2. 校正を終了した原稿は，電子メールもしくはファックスで速やかに返送する。

Ⅳ. 連絡・問い合わせ先

東京都豊島区駒込1-43-9

（社）日本補綴歯科学会事務局学会誌編集担当

Tel：03-5940-5451

Fax：03-5940-5630

e-mail：jpr-edit01@max.odn.ne.jp

以上